

## 金沢歌劇座の建替検討について

### 1 経緯

令和元年度 「金沢歌劇座あり方検討懇話会」を設置し、本市における芸術文化ホールのあるべき姿について取りまとめ

#### 【懇話会「取りまとめ」(令和2年2月)の概要】

規模：県内最大の収容能力を有する現在の歌劇座と同程度の規模（客席数）を維持すべき。

高さ：18mの規制に対応していくための検討を要する。

まとめ：本市の芸術文化拠点に求められる3つの機能

「質の高い芸術に触れる場」「芸術文化活動を発表・披露する場」「交流する場」を満たすため、整備区域等に係る課題の解決を図った上で、歌劇座を建て替えるべき。

令和2～3年度 整備区域等に係る課題について技術的な検討を実施

【まとめ】 現敷地と別敷地（日本銀行金沢支店用地）のいずれにおいても、令和元年度に取りまとめられた、あるべき姿の機能や規模を充足することは困難である。このため、各々の敷地における規制や面積等の条件のもと、実現可能な施設の機能や規模等を整理した上で、建替えに関する議論を深めていくことが必要。

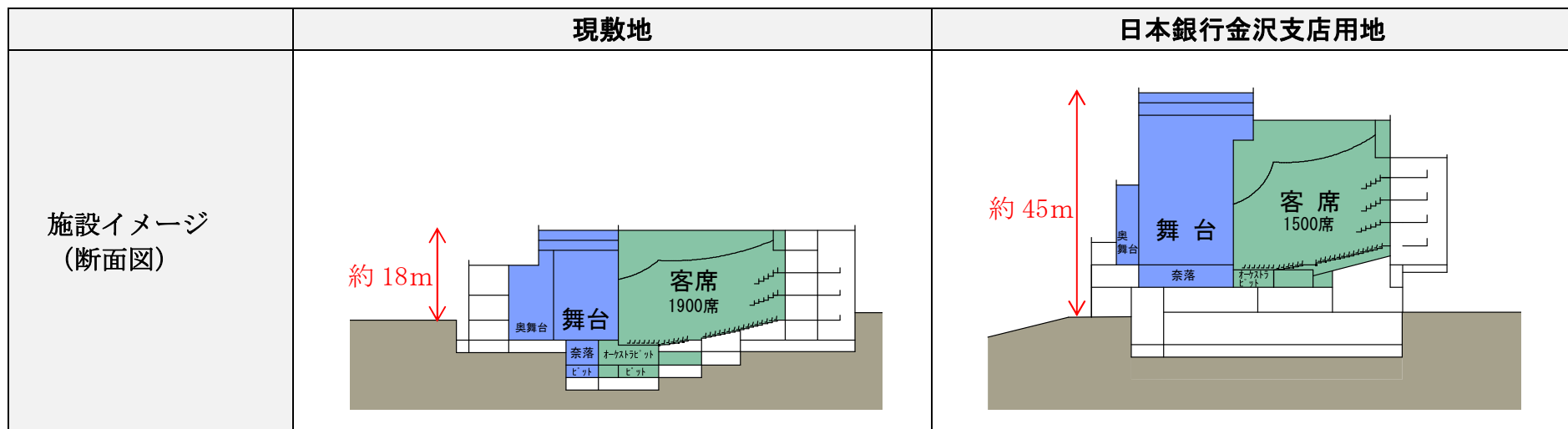
令和4年度 候補となる敷地の条件に沿った施設規模等について技術的見地から検討

### 2 候補地の敷地条件

	現敷地	日本銀行金沢支店用地
敷地面積	約9,800㎡（下本多町車庫含む）	約4,700㎡
用途地域	近隣商業地域（一部第一種住居地域）	商業地域
容積率／建ぺい率	300%（一部200%）／80%（一部60%）	600%／80%
高度地区	18m（一部15m）	45m
接道状況	四方接道	三方接道

### 3 検討結果

	現敷地	日本銀行金沢支店用地
建築面積	約 6,200 m <sup>2</sup>	約 3,700 m <sup>2</sup>
延床面積	約 17,400 m <sup>2</sup>	約 15,500 m <sup>2</sup>
建物高さ	約 18m (地上4階 地下3階)	約 45m (地上8階 地下1階)
<b>質の高い芸術に触れる場</b> (※：他都市の類似施設を参考とした理想値)		
舞台上部の高さ (※約 35m)	△ 約 23m	○ 約 35m
舞台の広さ (※約 1,600 m <sup>2</sup> )	△ 1,100 m <sup>2</sup> 程度	△ 870 m <sup>2</sup> 程度
1席当りの広さ (※1.0 m <sup>2</sup> /席)	○ 1.0 m <sup>2</sup> /席	○ 1.0 m <sup>2</sup> /席
楽屋関連諸室	○ 1フロアに広く配置可能	△ 多層化し利便性に劣る
機材搬入等の しやすさ	○ 車両動線の確保が比較的容易 ○ 車両待機場所の確保が比較的容易で、 柔軟な搬入出が可能	△ 道路幅員が狭く、車両動線の確保が困難 △ 交通量の多さから、車両待機場所の確保が 困難で、搬入出の制約が多い
<b>芸術文化活動を発表・披露する場</b>		
客席数	○ 約 1,900 席 (3層)	△ 約 1,500 席 (4層)
現在の利用形態 への対応	○ 利用頻度が高い学校行事等の大規模催事に 従来どおり対応が可能 △ 休館中の発表・披露する場の確保が課題	△ 客席数の減少や、大勢の児童生徒の送迎・待機等 の場所が確保できないため、学校行事等の大規 模催事の開催が困難 △ 客席が4層となる上、避難動線等の確保が課題
<b>交流する場</b>		
待合空間 (ロビー・トイレ)	○ 一団の空間として確保が可能 ○ ゆとりをもったトイレ空間の確保が可能	△ 細長い空間が多層に分断され、滞留しにくい △ 小規模なトイレ空間が多層化する
屋外空間	約 1,070 m <sup>2</sup>	約 400 m <sup>2</sup>



#### 4 まとめ

あるべき姿の機能	現敷地	日本銀行金沢支店用地
質の高い 芸術に触れる場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現施設に比べ舞台上部の高さは拡充されるが、理想とする高さの確保は困難</li> <li>・舞台の広さや楽屋関連諸室の利便性において優位</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理想とする舞台上部の高さの確保が可能</li> <li>・機材の搬入出が困難</li> </ul>
芸術文化活動を 発表・披露する場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内最大の収容能力（客席数）を維持できる</li> <li>・建替えに伴い休館が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収容能力が本多の森ホール（1,707席）未満で、県立音楽堂（1,560席）に類似</li> <li>・利用頻度が高い学校行事等の大規模催事の開催が困難</li> </ul>
交流する場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定の屋外空間を確保することが可能</li> <li>・屋外空間と建物との一体的活用が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外空間が狭小となり、来館者が滞留しにくい</li> <li>・各階の待合空間が狭く、来館者の動線が課題</li> </ul>

定例催事の約7割を学校行事やコンサートとしての利用が占めている金沢歌劇座の需要や利用頻度等を考慮すると、現敷地での建替えが総合的に優位である。

今後は、現敷地で実現可能な施設規模等を踏まえ、令和元年度に取りまとめた「あるべき姿」の機能を補足するための手法について、近年の芸術文化ホールに関する技術的動向や、舞台・客席計画の専門家等の意見を踏まえつつ、調査検討を重ねていく。